

- 平成26年10月に調査した結果、次期5か年期間中の附属病院の整備需要は約2,220億円
- 次期5か年期間中の整備需要額は、現行5か年計画とほぼ同額となっており、ライフライン整備の需要が増加
- 近年、再開発整備後に地域の特性を踏まえた各部門の機能強化を要望する附属病院が増加

附属病院の整備予定事業 40法人
 約60万㎡ 約2,220億円
 (約70万㎡ 2,340億円)

平成26年10月時点

- ※ ()内の値は現行5か年計画期間における実績
- ※ 附属病院を置く国立大学法人は42法人

1. 施設整備 約60万㎡ 約1,680億円
 (約74万㎡ 約1,920億円)

(内訳)

- 再開発整備(老朽・狭あい対策、教育研究機能の向上及び、先端医療等へ対応するため、外来部門、中央診療部門、病棟部門の主要3部門を中心に順次整備)

事業予定法人数: 17法人

- 機能強化(再開発事業ではないが、医療制度改革等の社会的状況の変化に対応するため、各附属病院の機能役割を踏まえた部門機能の強化)

事業予定法人数: 7法人

2. ライフライン整備 約540億円
 (約420億円)

- 日常、災害時における病院機能を維持するために必要な基幹・環境の整備

事業予定法人数: 35法人

- ・受変電設備更新
- ・上下水道・ガス配管等更新
- ・給水設備更新
- ・自家発電設備更新 など

次期5か年期間中における附属病院施設の整備需要

(億円)

